

特別支援学級（情緒） 道徳科学習指導案

令和5年 9月 28日（木）2校時
西原小学校 スマイル2組（3年4名）
スマイル4組（3年5名） 計9名
授業者 T1新垣 隆規 T2新垣 愛
共同研究者 渡久地 久美 城間 さとみ
玉城 香野 花森 久栄
西 弘忠

1 主題名・教材名

主題名：「学校をまもる人」C よりよい学校生活、集団生活の充実

教材名：「いちようの木をまもるために」（出典「小学どうとく ゆたかな心3年」光文書院）

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本時で扱う内容項目「C 主として集団や社会との関わりに関すること」の「よりよい学校生活、集団生活の充実」について、学習指導要領で学年段階ごとに次のように示されている。

第1学年及び 第2学年	第3学年及び 第4学年	第5学年及び第6学年	中学校
先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しくすること。	先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合って楽しい学級や学校をつくること。	先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくるとともに、様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実に努めること。	教師や学校の人々を敬愛し、学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合ってよりよい校風をつくるとともに、様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に努めること。

学校は、教育の場であり、地域に根ざした公的な施設である。学校がそうした施設としてあり続けるためには、学校の物や環境を大切にしなければならぬ。これから児童は地域の一員として学校自体や、学校の地域性を守っていく主体となる。子ども達が将来、主体的に学校や地域を守る一員になるためには、これまでどのように学校や地域が大切にされてきたかを知っておくことが求められる。そして、将来の子ども達のために、自分が学校や地域を守る主体であるという自覚を子ども達に芽生えさせることが大切である。

(2) 児童の実態について

本校はスマイル2組に男子4名、スマイル4組に男子3名、女子2名の計9名の3学年児童が在籍している。どの児童も明るく人懐こい性格の児童が多いが、情緒的に未発達な児童もいる。友達と関わる中で、相手の気持ちを考えずに、思ったこと、感じたことをストレートに口に出してしまい、トラブルになることもある。また、かっとなると、すぐに手が出てしまうことも多い。

この時期の子ども達は、行動範囲の拡大と共に活動が活発化し、先生や学校でお世話になっている人々、友達との関係も親密になる。また、仲間意識や集団の意識が増し、クラスや学校への所属意識も高まる。昨年度は、本校が140周年を迎え、子ども達の学校への関わりや地域への所属感は増したと思われる。今回の題材を通して、自分も地域の一員であることを理解し、これまで学校に関わり支え続けてきた人々の行動やそれを生む願いにも目を向け、尊敬の念や親愛の情を抱かせたい。

(3) 教材について

本教材は、校長先生や植木屋さんから始まった取り組みが、保護者や子ども、さらに町の人々を動かすまでに拡充する姿から、楽しい学校をつくるよさを理解できる教材である。木を守る取り組みの具体的な事実からそこに関わる人々の願いを深く理解し、楽しい学校をつくるよさに心を動かすことができるであろう。

関連する内容項目に「勤労・公共の精神」がある。この取り組みは、子ども同士の「木を守らずにはいられない」心から発した行動が重なり合うことによって生まれている。力を合わせた集団生活の向上につながる活動への参加から、みんなのために働こうとする意欲や態度を育むことにつなげたい。

(4) 指導観について

ここでは、木を守るために何をしたかという具体的な行動を理解し、そこにあるよさを感じることで情的な理解へと指導を進める。

そのためにも、木を守る行動を生んだ人々の願いなど、心に対する理解を大切にす。木を守ろうとする心と行動がひとつになるところに価値が生じ、子どもにとって魅力あるものになるからである。

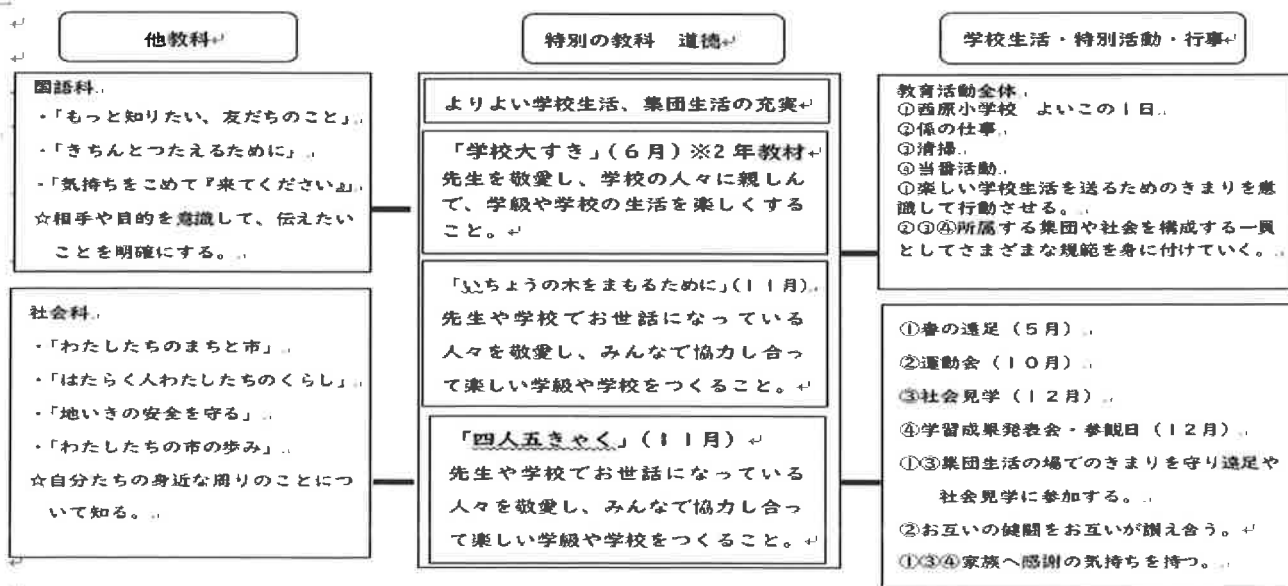
また、ここでは、いちようの木がもつ歴史性や思い出などの文化性を学校のよさとして価値付け、子どもたちの見方を目に見えるものから、目にみえないものへと深める指導を進めたい。

3 校内研との関連

テーマ：自己肯定感を高め、未来に向かう児童の育成
～地域との関わりの中で自己を見つめる道徳教育を通して～

特別支援学級では、副主題にある「地域」を父母・祖父母・兄弟などの家族、上級生・教師をはじめ、学校でお世話になっている人、近所の人・交通立哨をしてくれている人などの地域の人々、地域の自然・物・場所を指すと捉え、これまで取り組んできた。また、家庭や地域を巻き込んでの道徳教育を意識し、連携して取り組む活動を教育活動全体で行うことで、保護者も積極的に道徳教育に参加するようになってきた。

本校の特別支援学級児童は自己肯定感が低く、自分の思いを伝えたり自信をもって行動したりできる児童は多くはない。これまで、自己肯定感を高めるため、たくさんのボイスシャワーをあびせ児童の活動への価値づけを行ってきた。また、人との関わりの中で自分がやってもらってうれしかったことは相手もうれしい、嫌だったことは相手も嫌だろうなどと自分の経験から推し量って考える指導もしてきた。そこで、自分の中にある正しいことをしようとする心やよさを信じ、自分の弱さに打ち克ち、成長した自分を意識することができる児童を育てたい。また、集団や社会の中で生きているということは、自分も仲間の一人であるという所属意識を高め、学校や家庭、地域社会で自分を支え励ましてくれる様々な人々との関わりにおいて感謝と敬愛の念を深め、楽しい学校や充実した生活が構築できるように、自分たちにできることを探し行おうとする児童を育てたい。

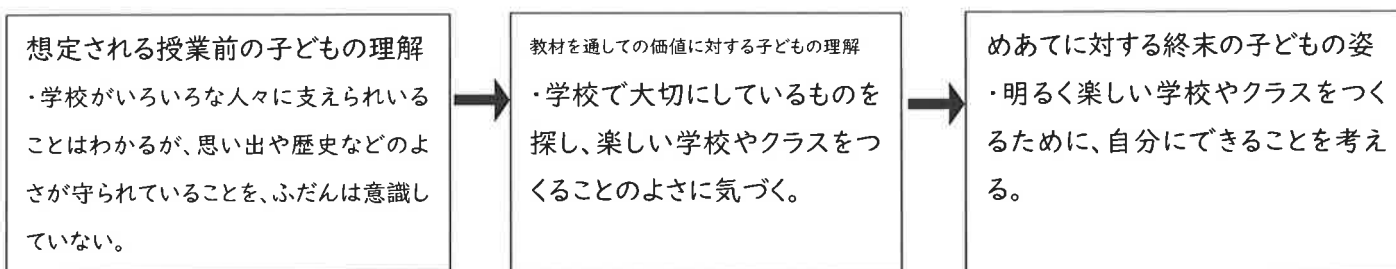


4 本時の指導

(1) 本時のねらい

自分の学校にはどのようなよいところがあるか考えるを通して、先生や学校でお世話になっている人々を敬愛し、みんなで協力し合って楽しい学校をつくろうとする実践意欲を育てる。

(2) ねらいとする価値への追求の見通し



(3) 本時の展開

段階	学習活動	主な発問 □基本・◎中心・○補助 ●児童の予想される反応	◆指導上の留意点 ◇評価
導入 5分	1 「学校のよいところについて」の事前アンケートの結果をみる。 わたしたちの学校のよいところ	☐ アンケートの結果をみてみましょう。 ● 友達や上級生、下級生との仲がよい。 ● 進んであいさつする人が多い。 ☐ どうして、そう思ったのですか。	・ アンケートの結果の説明(T2) ・ クラスのよいところ ・ 学校のよいところ ◆ 学校の新しいよさを見つけようと投げかけて教材に入る。
展開 30分	2 「いちょうの木を守るために」を読み、楽しい学校をつくることのよさについて考える。	☐ いちょうの木を守るためにだれがどのようなことをしていますか。 ● 校長先生が木を心配して植木屋さんに見てもらった。 ● 植木屋さんが木を調べて、痛んだところを削った。 ● PTAの方が植木屋さんを手伝い、募金活動をした。 ● 子ども達も募金活動をし、町の人たちも協力した。 ◎ どうしてみんなは、ここまでしていちょうの木を守りたいと思っているのでしょうか。 ● みんなも木を見ると楽しい学校生活を思い出すから。 ● 町の人たちにとって自慢の木だから。	◆ いちょうの木と葉の写真の提示 ・ ワークシートの提示 ◆ ペアトークで話させて考えさせる。 ・ 板書にまとめる(T2) ◆ 学校も町もみんないっしょになって木を守ろうとしたとまとめ、次の発問につなげる。 ◆ 表面的な理由だけでなく、温かい気持ちになったり元気が出たりすることも押さえない。

	3 自分の学校で大切にしているものを探す。	☐ 作った写真をみながら発表しましょう。 ☒ タブレットが大切です。なぜなら… ☒ 体育館が好きです。なぜなら…	◆児童が事前にとった写真をみせる。 ◆理由を明らかにした後「大切なものを守るために、どんなことに気を付けるほうがよいか考えさせる。(ペアトーク) ◇学校を支えてくれている人々に感謝し、自分たちも協力して楽しい学校をつくろうとする意欲をもつことができたか。 (ふり返しワークシート、発言)
終 末 10 分	4 振り返りを発表する。		◆学習を通して考えたことをまとめるための声かけを行う。

(4) 評価

①指導の評価 自分の学校にはどのようなよいところがあるか考えることを通して、先生や学校でお世話になっている人々を敬愛し、みんなで協力し合って楽しい学校をつくろうとする意欲をもたせることができたか。

②児童の評価 明るく楽しい学校やクラスをつくるために、自分にできることについて考えることができたか。

(5) 板書計画

アンケートの結果

いちょうの木をまもるために

わたしたちの学校のよいところ

☐ 学校で大切にしようと思うところありますか。

挿絵1 (校庭で遊ぶこども達)

挿絵2 (病気になったいちょう)

ふりかえり

☐ いちょうを守るためにしたこと

児童の意見

なんでこまるの?

「いちょうの木をまもるために」

名前:

☆多考えたいこと:わたしたちの学校のよいところ

しつ問①いちょうの木をまもるためにしたこと

校長先生:

植木屋さん:

町のおとな:

子どもたち:

しつ問②いちょうの木がなくなると、どんなこまったことになるのかな

校長先生:

植木屋さん:

町のおとな:

子どもたち:

しつ問③ 西原小学校で、自分のすぎな場所やものはどこですか。



あなたの学校には、どの木もなまじいことがあつてあつた。

23

いちようの木をまもるために

こうていのすみに、数本のいちようの木が立っています。

「ほら、見てごらん。こんな小さい葉でも、ちゃんといちようの葉の形をしているよ。」
「かわいい。いちようの葉の赤ちゃんだ。」

「こつちがみのなる木。むこうはみのならない木なんだ。」

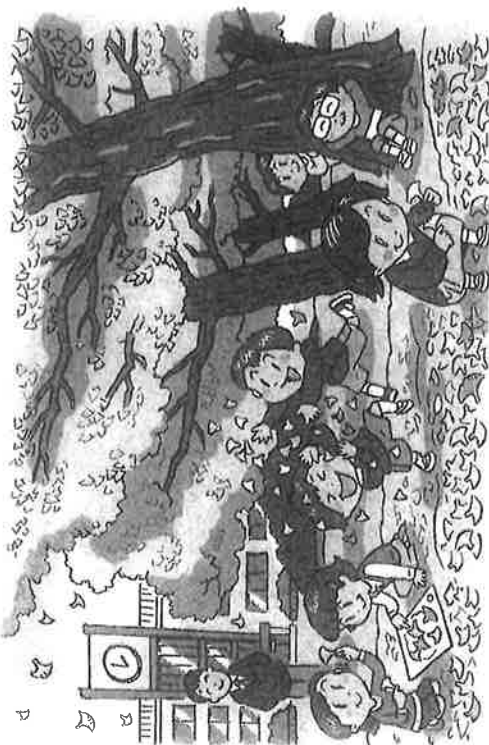
いちようの木の下で、先生と子どもたちがにぎやかに話合っています。

この大きないちようの木は、今の学校がたてられたときに、前に学校があつたばしよからわざわざうえがえられたもので、それからずっと、学校のシンボルとして、みんなに親しまれてきたのです。



みんなのじまの
いちようの木なんだね。

秋になると、まつ黄色に色づいたいちようの木は、町のどこからでもよく見えます。町にやってきた人が、あのみことないちようの木はどこにあるのか、とたずねると、町のおとなたちは、あれは自分たちの出た学校のこうていにあるのだ、とじまんそうに話しました。



今でも一年生の子どもたちは、黄色いいちようの葉がおちるころになると、じゅぎょうで、いちようの葉をつかつて人形を作ったり、画用紙にはつて絵を作ったりします。そして、あそび時間には、黄色いいちようの葉のじゅうたんの上をころげまわったり、てのひらいつばいにすくい上げたいちようの葉をおたがいになげ合ったりしてあそんでいます。

ある日のことです。校長先生がいちようの木を見上げて、首をかしげました。

「今年は、葉のつきぐあいがおかしいな。どこかわるいのかな。」

しんばいした校長先生は、知り合いの植木屋さんにいちようの木を見てもらいました。

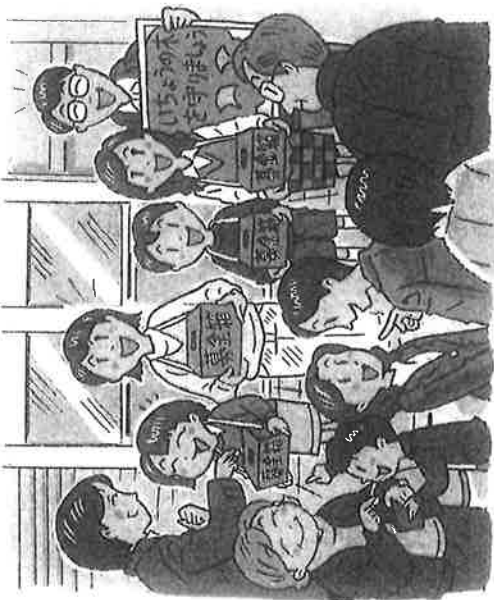
植木屋さんは、いちようの木のまわりをスコツ



あなたの学校やひろくで大切にしている
ものや、そのよれについて 話し合いま
しょう。



学校やひろくのためにできることを
たがわてみましょう。



学校新聞でいちようの木のニュースを読んだ子どもたちは、自分たちの大好きないちよう
の木がかわってしまうかもしれないということを知って、とてもおどろきました。そこで、じ
どう会の人たちにたのんでいっしょにぼきん活ど
うをすることにしました。

そんなみんなの気持ちを聞いて、植木屋さんは
べんの中て思いました。

(だいじょうぶ。来年の秋にはまたたくさんの
黄色い葉をかがやかせてくれるにちがいない。)

そして、みなさん、いちようの木にべんがあつた
なら、こんなことを思つたかもしれないと、そう
ぞうしてみませんか。

(かならず元気になるよ。ぼくを見ると、みんな、
楽しかった学校生活を思い出すのだから……。)

● 植木屋さん 作

5

10



植木屋さんは、ちよつとこまった顔をしました。
いました。

いちようの木がびようきだという話は、すぐに町中に広がりました。

(いちようの木をからしてはいけない。わたしたちの楽しい思い出もかなしい思い出も、
あのいちようの木はみんな知っている。いちようの木は学校のれきしなんだ。それに今、
わたしたちの子どもが、いちようの木といっしょに、新しいれきしをつくっている。子ど
もたちのためにも、あのいちようの木をまもろう。)

P.T.A.のお父さんやお母さんたちは、そう思いました。そしてすぐに、植木屋さんのてつ
だいをするここと、えいようぞいを買つためのぼきん活どうをすることをきめたのです。

プでほりおこし、そのねをしらべました。
そのけつ、木のねをほりおこし、いたん
だところをけずりとして、その後、しばら
く、えいようぞいを注入するひつようがあ
ることが分かりました。

「先生、だいぶねつこがいたんでいます。

このままだと、来年はかわってしまうかも
しれません。木のねをけずるのはわたし
がやりますが、ただ、えいようぞいが一
本数万円もするのです……。」

校長先生も、(これはこまったな。)と思

5

10

15



どうしてみんなは、ここまでして
いちようの木をまもりたいと
思っているのかな。